

さいたま市教組新聞

私の思いは

さいたま市教職員組合
執行委員長 伊藤新一



私は、子どもが好きだから、子どもたちが未来を創るから、教員は子どもを育てる仕事だから、この仕事を選びました。教育という仕事はそういう仕事だと思っています。

もう一つ、私は自分の親や子どもも大切に生きたいと思えます。もちろん自分自身も。

私たちは、教育という仕事しながらも、自分の生活も大切に働く「教育労働者」です。だから当然組合が必要で

す。
今、さいたま市の学校は大きく変わろうとしています。新しい世代が中心となって学校を運営する時代になりましたが、職場は多忙化で悲鳴を挙げています。「205日問題」の後、次々と新しい教育政策がトップダウンで下りてきています。

2017年度には「事務権限移譲」により、今までの具費採用から市費採用に任用形態が変わり、私たちの賃金や労働条件は、市当局との交渉で決まっています。

民主主義を手話で表現すると、親指を自分の前で大きく回し、上に揚げ、

No. 2 2 4
2016.6.6(月)
【発行者】
さいたま市
教職員組合
048-641-6763

差別問題

(サッカー観戦で考える)

大宮東小分会 福田重夫

一人ひとりが主人公と表現します。自分の思いを大切にし、自分らしく生きるために、みなさんの組合加入を心から訴えます。

私の休日の楽しみの一つは、無二の先輩とのサッカー観戦です。最員のチームは浦和レッズ。Jリーグ発足前から応援しています。去年はご承知の通り前期は無敗の優勝。しかし、後半はお決まりの失速で年間優勝は逃してしまいました。今年はいい補強があったりして去年よりもさらに内容のあるサッカーをしています。私たちファンにとってはチームが勝つことが当然いちばんの喜びですが、攻撃の形、相手のボールを奪ってからの展開、強固な守備など、最後までわくわくドキドキの内容です。また今年アジアのクラブチャンピオン選手権(ACL)でもアジアの強豪チームを破り上位のトーナメントに進出しました。(残念ながらベスト8にはいけませんでしたが)

れチームは無観客試合をするまでの制裁を受けましたが、その教訓も生かされず最近目立つのはいわゆる「旭日旗」やそれをチームカラーにアレンジした旭日旗仕様の旗が掲げられることです。

私は大変な嫌悪感を覚えます。レッズには元韓国籍を持った主力選手がいますが、彼に対する差別意識もあるのではないとも言われています。また、相手チームに韓国人選手がいるときにはこの旗が意図的に多く掲げられるように感じます。さすがに中国や韓国のチームが出場するACLではそれらをクラブは規制しているようですが、それは裏返せば旗の意味合いをクラブも一部サポーターも十分認識していることを象徴しています。

クラブは差別行為を重点禁止項目に掲げ、誰にとっても快適なスタジアムにと謳っていますが現状とかけ離れています。スタッフにも申し入れたこともありましたが、クラブとしては容認だそうです。クラブやファン、サポーターがスタジアムを真の「ワンダーランド」として求めるために、この問題の解決は急務です。

